

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	韓日語における漢語の対照研究：「氷点」の翻訳資料を中心として
Author(s)	朴, 雄淳
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 1991 : 49 - 55
Issue Date	1992-03-01
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00039302
Right	
Relation	



3. 原作の漢語と翻訳の漢語との対照
 まず、「氷点」の漢語と翻訳の漢語を類型別に表で表してみると以下のようになる。

(表1)

分類基準	I 類型	II 類型	III 類型	計
異なり語数	1395	246	27	1668

表1で、顕著なのはI類型の占める比率が非常に高い点である。そして、II類型も少くない点が見られる。それでは、各々の類型別に見てみよう。

1) I類型
 「氷点」に出る漢語をそのまま使える場合をI類型として処理してみた。総異なり語数の約80%を占めるこの型は、表記と意味の用法でほぼ一致している。
 李漢燮氏の「日韓同形の漢字表記語彙」¹⁾によれば、以下の表2で分るように、『日本語教育基本語彙七種比較対照表』に収録されている漢語2604語の中で94.08%が同形語であるとのことである。

(表2)

語種	語数	韓国語との同形語	同形語の冲意味が大体一致する語
漢語	2604語(42.88%)	2450語(94.08%)	2418語(98.69%)
和語	3056語(50.32%)	172語(5.63%)	166語(91.51%)
混種語	169語(2.77%)	14語(8.33%)	12語(85.71%)
外来語	245語(4.03%)		
計	6073語	2635語(43.39%)	2596語(98.52%)

さて、I類型の例をあげると次のようである。

例① ①原作の漢語： 容疑者 捜査中 絞殺 留置場 罪悪感 逮捕
 ②翻訳の漢語： 용의자 수사중 교살 유치장 죄악감 체포
 (容疑者) (捜査中) (絞殺) (留置場) (罪悪感) (逮捕)

①： 自殺 姿勢 長女 新聞 殺意 患者 期待 刑事 手術台
 ①： 자살 자세 장녀 신문 살의 환자 기대 형사 수술대
 (自殺) (姿勢) (長女) (新聞) (殺意) (患者) (期待) (刑事) (手術台)

①： 表情 一部 意識 院長 眼帯 哀願 犯人 写真 肋膜炎
 ①： 표정 일부 의식 원장 안대 애원 범인 사진 늑막염
 (表情) (一部) (意識) (院長) (眼帯) (哀願) (犯人) (写真) (肋膜炎)

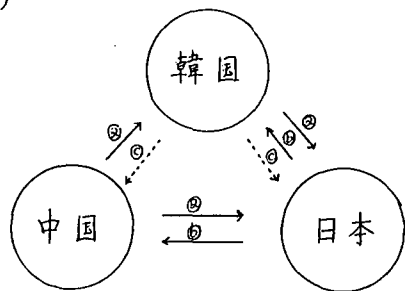
このように、日韓同形漢語が多数存在する背景は何であろうか。沼本克明氏は、「日本漢字音の歴史」の中でこう述べている。

中国漢魏の文化は二世紀末頃から交渉の有った楽浪郡を経て三

古和しがは、に
 上大着我で手
 国…定てまの
 中…にし前々
 頃。既と以人
 のた、郎期の
 これで一古裔
 もさ程の推末
 音植過字もの
 字移の文とそ
 漢にそ記くが
 。島、書な及
 た半めの少人
 れ鮮深人…化
 ら朝を化…帰
 えて涉帰た。る
 伝、交波たす。り
)にと第な心る
 韓(文化)がに中
 辰文韓音とをて
 ・が馬字こ済た
 韓音旧漢る百っ
 弁字(のれにあ
 ・の済魏と主で
 韓統百漢植ての
 馬系はた移全も
 (の庭いにどる
 韓音朝て固殆な

っら国幅・韓にな国、言
 持か中大、特に韓と
 を国は・と、じらの
 係韓に立るり同かも
 関て語埋よおが固た
 なし漢・にて形中
 接その訳氏れ語の取
 密、語内變入の代を
 に韓国・漢け記時態
 い韓韓取李受表の形
 互ら、受、を字古の
 はから、葉漢は入
 固固が口合言、れ輸
 三申な入場のでこ逆
 のにし「のくの中、
 本かか、こ多のると、
 日確しば、ら語ある
 ・は、えるかたで見
 固語る例あ語ったら
 韓漢あ、が本入こか
 ・字うあな、かと経
 固字うあな、かと経
 中漢上が「後語³⁾」う
 昔。た合私以本るい
 ,るれ場合支末日あ
 ,にあらいい・紀のて本
 うでえな物世半然日
 のたへて・織19前当
 こい日本自語は紀はか
 て日出親固20る韓え
 結局, I 類の
 が時字論, 異の
 漢語勿
 のある
 自出
 出た
 日本
 と日
 漢語
 の定
 自出
 出た
 中国
 の漢
 語受
 大の
 一語
 漢語
 同形
 の意
 漢語
 同形
 の意
 漢語
 同形
 の意

(図1)



- ⊗ : 中国出自語
- ⊙ : 日本出自語
- ⊘ : 韓国出自語

図1で中国と日本との関係、自漢語を作って他国に送る役割をして
 り、なかつたおきたい。なせであろうか。こ
 の点は今二つの基準と
 の基準となる
 IA類型：日本語の漢語をそのまま使用されている場合
 IB類型：日本語の漢語と同形があるが、翻訳では別の漢語を使用し
 IC類型：日本語の漢語と同形があるが、翻訳では非漢語（伝来の韓
 国語）を使用している場合
 などである。
 上記のIA類型の例としては、前頁の例①がある。IA類型がI
 類型の中での割合は60%以上である。「氷炭」に出ている
 漢語のほぼ半分以上がそのまま使えるのである。

IB類型とIC類型もIA類型のようにそのまゝ使えろが、翻訳で別の漢語と非漢語で対応している。それぞれの例を見ると、以下のように

- 例① ① 原作の漢語：旅行中 残酷 狼狽 劍御 仕絶 周辺 一同
 ② 翻訳の漢語：出張中 残忍 鹿慌 抑制 凄惨 近処 一行
- ①：通報 出産 親友 不愉快 相談 鉄砲 供養 散考 懇談
 ②：制報 解産 親旧 不快 議論 銃 命福 散策 懇議
- ①：掃除 悪運 台帳 日曜日 屋内 美容院 題名 中止
 ②：清掃 扼運 帳簿 休日 室内 美粧院 題目 取消
- 例③ ① 原作の漢語：微動 急激 助長 安心 扼殺 内外 不足
 ② 翻訳の非漢語：공작 갑자기 커지다 믿음을 扼殺 안팎 못자라다
- ①：他意 訪問 印象 人間 洗濯 孤独 無断 再開 繁榮
 ②：판뜻 다가다 느짐 사람 빨래 외롭다 말없이 다시두다 잘되다
- ①：注文 登校 生徒 中央 歌謡曲 悪漢 嘲笑 侵入 口実
 ②：부탁이다 학교에 아이들 한복판 노래소리 나쁜놈 웃웃 들어오다 핑계

以上の例で漢語と非漢語の対訳が示されている。この対訳から、漢語と非漢語の対訳が等しいものが多いことがわかる。これは、漢語と非漢語の対訳が等しいものが多いことを示している。漢語と非漢語の対訳が等しいものが多いことを示している。漢語と非漢語の対訳が等しいものが多いことを示している。

- 漢語と非漢語の対訳が等しいものが多いことを示している。漢語と非漢語の対訳が等しいものが多いことを示している。漢語と非漢語の対訳が等しいものが多いことを示している。
- 例④ ① 原作の漢語：大震災 寒外 前借金 喫茶 交番 洗面所
 ② 翻訳の漢語：大地震 寒外 前借金 喫茶 交番 洗面所
- ①：風呂 役得 世話 本気 作法 病人 利口 機嫌 調子
 ②：沐浴 横財 所介 真心 態度 患者 英利 気分 調語

続いて、原作の漢語が省略されている場合を考慮してみよう。

例① ①原文：いつものように無造作にカバンを
②翻訳文：여느때와 마찬가지로 O 가방을 나쓰에게

①渡して, 啓造は あがりがちに 腰をおろした。
②넘겨주고 나서 게이조오는 천관 마루에 걸터 앉았다.

①高木は カッコハ、 ゲイツと アゴの無精ひげを
②다카키는 힘껏 툼 O 수염

①一本ぬいた。
②한개를 뽑았다.

ては、例の支障に左
れ例の支障に左
さのら國上有形
訳「せ韓味のな
訳作とは言葉の
が造形は、言よ
分無対精はるの
部「に無場合の
の。う「場て例
」か上のう訳時、
精うの「う翻、
無ろ」げうくう
「だれひこか狙
、い理精こを狙
」な早無だ。とを
造「ア」う。効果
作「ア」う。効果
無れ漢面いろ表
「さ漢反なかる
漢訳非。が良よる。
のせがな言方略あ
作ないのるた省で
原。なてきしもの
で、るなてきしもの
例が対訳対略葉る
のの対がにれず、に
上いでの中けらう、
いな漢と語なけら
い漢と語なけら

る。「愛、例は
あ、」日る。ソ
が死前あある
約生「で節
制、」一般音
い、中一は
わののが大
使の例は
り、のの例
ま、記の
あ、上読こ
は、さ。箱こ
して用る重る
とにで、え
字主語ると多
一、しなで問
が、しなで問
る、しなで問
お漢の可わえ
はの等みと
み語「読音み
誦韓国音読
音韓衣はの訓
論、」等語+
勿論、」漢
例情「窓」音

るな日学漢で影
い、活は、文の
て、の語し、者
し、類用か、翻
対籍のし、最
に書類、ら、文
う一般書易だ、
の、一、が、
ど、は、業、業、
が、業、業、業、
語、作、業、業、
翻、作、業、業、
と、訳、業、業、
漢、語、業、業、
出、回、業、業、
に、韓、業、業、
」を、業、業、
矣、説、業、業、
氷、小、業、業、
に、本、業、業、
り、日、業、業、
わ、ま、業、業、
お、ま、業、業、
4、い、業、業、
か、動、業、業、

のめ今う。入る。多学語
 形占ら思輸言え上を漢
 同をかとの。見値語の
 韓が代る明る。数本語
 日80古あ文あ多。日国
 ,約はが術でがは,韓
 とのれ係技け語合め,鮮
 る数と開式わ自場合論,明
 才語。な新る出いの勿の表
 介りが接とい日本な語。易
 紹なの密程といし漢る。意
 を異ると過つと在式れ分は、
 果総出係成持語存本らはは
 結,が関形を自に日じ場合
 たで果際。の性出語が慈場
 みい結。園。似。国。漢。語。の。た。上
 てら。な。の。化。類。中。の。漢。し。語。れ。り。面
 しく。う。国。文。の。語。の。難。漢。さ。た。の
 化。語。よ。三。字。高。は。国。%。に。式。理。え。語
 類。95。の。国。漢。は。に。韓。17。常。本。処。加。漢
 て。約。で。上。漢。漢。語。は。約。非。日。て。を。は
 づし。背。景。本。に。の。の。漢。に。っ。り。と。て。こ
 基。と。な。の。伝。三。国。語。の。」。と。て。型。っ。こ
 に。型。ん。回。の。韓。本。氷。人。持。並。た。あ
 準。類。ど。中。籍。ら。日。国。を。し。で
 基。I。の。漢。か。と。韓。性。て。に。態
 類。は。る。で。等。る。方。い。る。似。し。慣。形
 分。語。い。ま。字。程。え。一。な。す。類。を。習。ろ。う。
 漢。て。日。漢。過。か。く。習。と。な。す。思

若干翻な三。う。人々。に
 ,」調。・史。か。る。人
 が。尖。く。る。史。か。る。人
 た。氷。し。あ。韻。良。す。う。
 及「詳。で。音。は。習。ろ。う。
 て。は。て。等。れ。学。あ
 し。は。い。史。才。を。で
 析。れ。つ。た。兼。用。語。あ
 分。そ。に。っ。語。活。国。あ
 り。に。語。か。の。分。両。が
 な。た。出。し。漢。を。日。韓。義
 自。摘。語。核。は。書。籍。の
 ,指。国。分。合。連。ほ。研
 ら。が。両。十。場。関。む。に
 が。真。中。を。る。の。進。こ
 な。の。日。例。才。等。は。そ
 を。て。尖。れ。究。論。進。ま
 業。し。い。さ。研。究。進。ま
 作。と。な。化。な。の。究。う。
 化。題。は。ど。う。学。研。思
 型。課。で。一。よ。文。る。と
 類。は。類。力。の。訳。け。る
 ,た。種。こ。翻。お。え
 に。ま。一。尖。こ。翻。お。え
 り。題。が。た。後。史。語。を
 終。問。本。っ。今。歴。日。益
 の。訳。か。の。韓。利

* 注

- 1) 李明漢書院「日韓同形の漢字表記語彙」(『日本語学』8月号, 1984, P.104)
- 2) 沼本克明「日本漢字音の歴史」(昭和61年, 東京堂出版) PP.88-89
- 3) 注1)と同じ P.110

* 参考文献

1. 田中章夫『国語学概説』(昭和五三年・明治書院)
2. 沼本克明『国語学概説』(昭和六一年・東京堂出版)
3. 三浦綾子『氷点』(昭和五七年・角川書店)
4. 三浦綾子著『氷点』(1988・汎友社)
5. E. U. G. E. N. A. N. I. D. A. 著・成瀬武史訳『翻訳学序説』(昭和四七年・関文社)
6. 李漢燮『国語学概説』(1989・韓信出版社)
7. 李明漢書院「日韓同形の漢字表記語彙」『日本語学』8月号(1984)
8. ソウル大学校語学研究所『韓日語対照分析』(1988・明志出版社)